<市町村探訪>
う わ さ の こ の ま ち

このコーナーでは、各地域における市町村の取り組みをご紹介します。今回は、常陸太田市をとりあげてみました。

常陸太田市は、平安時代後期より北関東の豪族佐竹氏の支配地として発展し、江戸時代初期からは水戸藩の要地として栄えました。また、水戸黄門こと水戸光圀が晩年を過ごしたところでもあり、その隠居所である西山荘をはじめ水戸徳川家に関する史跡も多く残されています。

そのように古い歴史の息づく常陸太田市は、市街地が南北に細長い「鯨ヶ丘」と呼ばれる台地の上に広がっており、土蔵や木造の旧家がたたずむ街なみはかつて城下町として栄えた面影を残しています。こうした背景もあり、常陸太田市では地域の歴史性を活かしたまちづくりを目指して街なみ環境整備事業を実施しています。街なみ環境整備事業とは、地方公共団体が、街づくり協定を結んだ住民と協力し、統一感のある街並みを形成したり、地区の施設の整備などを行うものです。

この事業では、中世より塩街道として栄え現在でも蔵や町屋、井戸等が残っている「通り塩町地区」を街なみ環境整備促進区域として設定し、様々な取り組みを行っています。特に、居住環境の面も考慮し、この通りに直接面する部分だけでなく、この通りを中心として生活する奥行きの部分まで含んで整備を検討しています。たとえば、地区の街なみに配慮した舗装にしたり、路地空間には古い建物を見ながら散策できる小径を整備していく予定です。各辻（交差点）には小公園を整備したり、案内板等を設置したりもします。

また、地区の住民により既に「通り塩町地区街づくり協定」が締結されており、協定に基づき街なみに配慮して建物や工作物等の新築・改築をしていただくよう協力をいただいております。

このように、歴史的なたたずまいを維持し、まちの良さを後世に伝えていくためには、行政と地区の住民が一体となって取り組むことが大切なのです。（問い合わせ：常陸太田市都市計画課　TEL0294-72-3111）

街なみ環境整備事業による道路の美装化
（自然石を使った石張り舗装）